

# 否定疑問文「(の) ではないか」についての研究

凌 飛

## 要旨

本研究では、否定疑問文「(の) ではないか」という形式、及びその類似表現である「じゃん」について考察した。2形式の使用実態を調査し、実際に用いられる用例の分析を行い、それぞれの用法を明らかにした。

本研究は5つの章に分けた。その内容は以下の通りである。

第1章では、「(の) ではないか」と「じゃん」に関する先行研究をまとめた。

第2章では、現代日本語書き言葉均衡コーパス（以下はBCCWJと呼ぶ）を用いて、「(の) ではないか」のバリエーションを調査し、整理した。結論として、「(の) ではないか」にはバリエーションが多くあり、バリエーションごとの使用頻度も使用傾向も異なり、それぞれの特徴があることが分かった。

第3章では、BCCWJから収集した「(の) ではないか」のバリエーションの各レジスターにおける分布を見て、それぞれの使用頻度と使用傾向を明らかにした。

第2章と第3章の内容を通じて、「(の) ではないか」にはバリエーションが多くあり、バリエーションごとの使用頻度も使用傾向も異なり、それぞれの特徴があることが分かった。

第4章では、職場コーパスという会話コーパスから収集した用例を分析し、意味的・構文的特徴から、「(の) ではないか」を3分類した。そして、構文的特徴からだけでなく、文法化の度合いの観点からも各分類の相違点分かった。結論として、「(の) ではないかⅠ」の構文上において、「(の) ではないかⅡ」と「(の) ではないかⅢ」より制限が多く、文法化の度合いがやや高いことが分かった。さらに、「(の) ではないか」には細かい用法が多くあり、各用法は完全に異なるものでなく、その間に連続性が見られた。

第5章では、「(の) ではないか」の類似表現である「じゃん」について述べた。まず職場コーパス、CSJとCEJCという3つの話し言葉コーパスを用いて、「じゃん」の実態調査を行った。これで、「じゃん」は「(の) ではないか」と違い、あまりバリエーションがなく、「じゃん」、「じゃんか」と「じゃんね」という3つの形に限られることが分かった。そして、「じゃん」は広い年齢層に渡り使用されているが、特に20代による使用が多いことも分か

った。さらに、実態調査の後に、CSJと職場コーパスから収集した用例を分析し、実際に使われる「じゃん」の用法をまとめた。「(の) ではないか」と「じゃん」の重なる用法として、発見、提示と確認の3つがある。東京方言話者（松丸（2001））の内省によると、「じゃん」は上昇イントネーションをとることで、推測にも使えるとなっているが、今回の調査では、そのような用例はなかった。